

• ユニット：

ユニットの最初に、会話が合った文があります。この会話には、口語表現がたくさんでてきます。「お名前お願いします」のように助詞を省略した表現や、「歌っちゃいます」や「おっしゃって」などの縮約形もいろいろでてきます。みなさんは、この会話をおぼえる必要はありません。みなさんは、この文を読んだ後、林さんのマナーや言葉づかいで、どこがよくなかったのかを考えて、その問題点を言ってください。この部分は、この教科書の中でとても大切なところです。6課からは、問題点を指摘するだけでなく、みなさんが林さんだったらどうするかも考えてください。クラスの人といっしょに勉強している人は、クラスの人々が指摘したいろいろなポイントについて話し合ってみましょう。(問題点を指摘する言い方は、11ページの「教室での言葉」を参考にしてください。)

問題点を考えたら、次に解説を読んでポイントを確認します。その後、練習をしてください。練習には、下線の部分を入れ替えるものや、自分で会話を作るものがあります。クラスメートと練習していても、自分が実際に日本人とコミュニケーションするときのことを想像しながら練習してください。

• まとめ：

ここでは、各課で勉強したマナーのポイントや表現を復習します。その課の中で勉強したことだけではなく、前の課で勉強したことの復習も含まれていますから、うまくできなかったところは、もう一度、勉強したユニットに戻って復習しておきましょう。

• 豆知識：

ここには、各課に関連して、知っているのと役に立つ内容がでていますから、気軽に読んでください。

3. 付録：

付録の中には、「日本人の姓」や「ビジネス文書」など、本課を勉強するとき

に参考になる情報が出ています。

教室での言葉

1. 各ユニットの問題点を指摘するときの言い方

(1) 質問文：林さんのマナーで、よくないところはどこですか。
 <答え方の例> → 挨拶をしなかったところです。

(2) 質問文：林さんのマナーで、よくないところはどこだと思いますか。
 <答え方の例> → 不親切なところがよくないと思います。

(3) 質問文：林さんは、どうすればよかったのでしょうか。
 <答え方の例> → はっきり言えばよかったと思います。

(4) 質問文：あなただったら、どうしますか。
 <答え方の例> → 私だったら、最初に挨拶します。

→ 私だったら、たぶん、最初に挨拶するだろうと思います。

2. 先生に質問するときの言い方

(1) 先生、○ページの下から○行目にある「○○」という言葉の意味がわかりません。教えてくださいませんか。

(2) 先生、この場合、「すみせんが」の代わりに「恐れ入りますか」という表現を使ってもいいですか。

(3) 先生、お礼を言うとき「どうも」を使うのは、失礼ですか。

(4) 先生、この場合、「改めて」と言うのと「もう一度」と言うのでは、どちらのほうが適切ですか。